

特集

横浜キャンパス図書館リニューアル報告

水上 恵子

本学の事業改革のために推進されている「アクションプラン 2030」において、横浜キャンパスでは主体的に学ぶ教育環境の創出に向け、2号館ラーニングコモンズ整備を計画し採択された。

図書館は学術情報の基盤施設であることと、授業の有無に影響されない学習空間であることを踏まえ、学生モニター会議における学生からの意見聴取、教員からの授業の進行などのインタビュー、および事務局を含む他部署の意見ヒアリングなどを反映させながら横浜キャンパスにおけるラーニングコモンズ整備を検討してきた。

整備工事が終了した今、これまでの流れをまとめておくことで、リニューアルした図書館の活発な利用状況を継続的に推進させるための一助となることを願っている。

キーワード：図書館、ラーニングコモンズ、ゾーニング、ラーニングサポートデスク

1 まえがき

大学図書館はこれまで静かな環境で個人学習・研究でできる場であることに重点をおいてきた。しかし、昨今の学習ニーズや学習形態の変化に呼応し、自学やIT活用などへの支援が受けられ、グループでの議論、共同作業や発表ができる新しい学習空間いわゆる「ラーニングコモンズ」が必要となっている。

文科省による学術審議会において学生の主体的な学習のベースとなる図書館機能強化が謳われ、全国の大学においてラーニングコモンズ化の流れが進み、世田谷キャンパス図書館においても2015年に図書館地下にラーニングコモンズ環境が整備された。

横浜キャンパスにおいても図書館委員会においてラーニングコモンズについて検討されてきたが、図書館面積の規模などの理由から実現できずに開設から20年以上、同じ施設のまま利用されてきた。

このような背景を受けて2018年3月、横浜キャンパス図書館1階にグループ学習のための新たな空間が誕生した。このスペースにはグループで行う様々な学習スタイルに応じた6種類のエリア(フリースタイルエリア、ワークエリア、ラーニングサポートデスク、AVコーナー、グループスタディールーム、ニューススタンド)があり、大型モニター、プロジェクタやホワイトボードの設置機材、ラーニングサポートデスクによる学習相談支援などハード・ソフト両面からの学習支援を充実させた。

一方、1階の整備終了後、2018年8・9月には段階的

に図書館2階を、1階とはまったく異なる「個人でじっくり集中して学習する静かな環境」も確保するべく改修工事を行った。

本稿では2015年～2018年にかけて実施された横浜キャンパス図書館のラーニングコモンズ整備を含みリニューアルについて、その活用状況も併せて報告する。

2 横浜キャンパス図書館の概要

1997年に横浜キャンパスが本学において新たに開設され、当初2号館は図書館と情報基盤センター(当時の呼称は「情報メディアセンター」)、LL教室の施設を併せ持つ学習・研究の場として多くの学生に活用されてきた。

現在、図書館は現状の学部構成である環境学部、メディア情報学部および大学院環境情報学研究科が利用する学習・研究施設であり、学生・教職員を中心にサービス対象者は2,000人ほどである。

資料はキャンパスで展開される学問分野を網羅する蔵書構成となっており、図書約13万冊、雑誌1,020タイトルを所蔵している。

フロアは地下1階、地上2階で、床面積は1,442m²の小規模な図書館である。

後に詳述するラーニングコモンズ化のための什器設置にあたり、車椅子に対応できるよう書庫間やテーブル間には余裕をもたせた。また、随所に観葉植物を配したり、毎年夏には学生たちが図書館の窓に沿ってグリーンカーテンを植えるなど、緑のある、いわゆる「居心地の良い」雰囲気づくりを意識した。

また、長時間滞在の利用者に配慮し、キャップ付きペ

ットボトルなどの飲料の持ち込みを認めている。試験期は日曜日でも開館しているため、軽食の取れる場所を検討することが今後の課題の一つである。

館内では社会メディア学科 小池教授の研究室で作製し、図書館に提供くださった小さな可愛いロボット(愛称「マグボット」(図 1 参照)と「シェイクボット」)が活躍している。企画展示の説明をしたり返却時の注意喚起、個人用学習室の利用確認など活動範囲を広げている。

館内には 12 台の貸出用ノート PC があり、利用は館内限定であるが、PC ロッカーから学生証で貸出・返却ができる。同じ建物内に情報基盤センターがあり、PC 演習室はじめ ICT 環境は充実しているが、図書館内でも PC を揃えることにより情報収集や学習、研究活動のサポートを可能にした。

横浜キャンパス周辺的环境は静かな住宅地で、学生の集う場所や立ち寄れるカフェなどがなく、授業の空き時間はキャンパス内の学食や 2 号館メディアホール、3 号



図 1 工作中的マグボット



図 2 ラーニングサポートデスク

館の空き教室などが主な集いの場であったようだ。図書館が空き時間も自主的に学習したくなる創造的空間として積極的に活用されることを願っている。

3 整備計画の経緯

2015 年 4 月：アクションプラン 2030 における「キャンパス教育環境向上プロジェクト」の採択に向け、2 号館のリニューアル検討を開始。

2015 年 9 月：図書館のゲートを 2 号館入り口に移設して、2 号館内は図書館と情報基盤センターを自由に往来できるようにしてはどうかとキャンパス総務センターより提案されたが、結果的に 2 号館演習室での授業時にゲートに多数学生が殺到することで渋滞が懸念されること、ならびにゲート増設やゲートに対応した図書タグの貼替などの費用を勘案し却下。

2015 年 11 月：ラーニングコモンズ・ワーキンググループ(図書館委員、教務委員、事務職員)にて、ラーニングコモンズのために必要なスペースを検討し、①グループ学習エリア ②静かな個人学習環境 ③学習支援のための相談ブースを提案することとした。

ラーニングコモンズ化のためのスペース確保として 1 階書架の参考図書を①電子ブックに変更 ②利用のないものは閉架書庫へ移動 ③集密書架を増設し配架。また、広いスペースをとっていた AV コーナーは①数人で座れるソファを撤去 ②台数を減らすなどによりスペースの縮小などの諸施策を決定。

2016 年 8 月：図書館 2 階に個人用ボックス席(9 台)を購入、設置。

2017 年 1 月：5 社にラーニングコモンズ整備計画案を提示、プレゼンを実施。

図書館委員を中心に本学のコンセプトに合う業者 3 社に絞り込み。

その後、図書館委員会において慎重に検討し委託業者を 1 社に決定。

2017 年 5 月：図書館委員と事務職員で他大学ラーニングコモンズ視察のため、共立女子大学神田一ツ橋キャンパスの KWU Library Commons を見学。

2017 年 7 月：2 号館の施設・機能・ゾーニング・コンセプトについて他課(教育支援センター、キャンパス総務センター、学生支援セン

ター、情報運用課）との意見交換を数回実施。「整備計画は2号館全体で考え、図書館と情報基盤センターとでグループ学習スペースの明確な差別化をすること」、「グループ学習スペースも個人学習用スペースも他にはない特色あるスペースが望ましい」などの意見があり、審議書などの書類作成のアドバイスも頂戴。

2018年3月：図書館1階ラーニングコモンス整備工事完了。（2月～3月）

2018年9月：図書館2階改修工事完了。（8月～9月）

4 学習支援

従前より、学習支援として情報リテラシーの授業における情報検索や図書館活用に関する講座などを図書館スタッフが行ったり、その他にもILL（図書館間相互貸借サービス）やレファレンス・サービスなど学習活動のサポートを実施してきた。

それらに加え、ラーニングコモンスの整備の一環としてラーニングサポートデスク（図2参照）を設置し、相談に応じて資料の探し方やレポートの書き方をサポーターの学生から相談者に丁寧に説明し、相談者の学習能力向上、さらにはサポーターの学習・指導力向上を同時に図ることとした。

スタートとして、2つのデスクをオープンした。1つは従前より研究室で「英語寺子屋」（図3参照）として行われていた英語の学習相談。もう一つのデスクでの相談内容は、レポートの書き方などの「ライティング」と「資格取得」に関するアドバイスの2点に絞って受付けることとした。「ライティング」の学生サポーターは情報リテラシーの前年度受講生の中から教員に推薦いただいた。また、「資格取得」は対象資格を「技術士」と「エコ検定」とし、担当の教員から学生サポーターを推薦いただいた。

相談窓口は月曜～金曜日の3限と4限の時間にサポーターが待機することとした。

2018年度の相談者は、前期は延べ180件以上に達したが、後期は7件のみであった。これは前期は教員が必修授業においてサポートデスクの活用を促して利用が多かったことに起因している。現時点では学生が自発的にサポートデスクを利用することは難しいと考えられ、今後も授業との連携が重要と考える。今後はライティングと資格取得だけではなく他の領域の学習相談もカバーできるようにすること、サポーターの存在がキャンパス内に浸透すること、また、サポーター自身の教育や訓練などの課題があると考えている。

また、学生サポーターは学部生だけであったが、これからは大学院生のサポーター確保も視野に入れていき

たい。

もう一つのサポートデスクでの英語学習相談「英語寺子屋」は大学院生、学部生、教員が受付けた。英語寺子屋も利用状況等で同じ課題を抱えている。

5 各エリアの紹介

5.1 フリースタイルエリア（1階）

可動式のテーブル椅子が40席、複数の可動式ホワイトボードがあり、グループ単位での学習だけではなく、講演会などのイベント、教員による「ミニセミナー」（図4参照）、ビブリオバトル「よいほんゼミ」などを開催した。また、学生の企画により教員と学生とのディスカッションの場を設けるイベントもここで行われた。

このエリアは授業やゼミなどの定例的な利用は不可で、単発の利用のみとし、イベントやプレゼンのための使用は事前予約制とした。

5.2 ワークエリア（1階）

大型テーブル席とボックス席が設置されている。大型テーブル席は3席あり、模造紙や地図などの大判資料



図3 英語寺子屋



図4 フリースタイルエリアでの第2回ミニセミナー

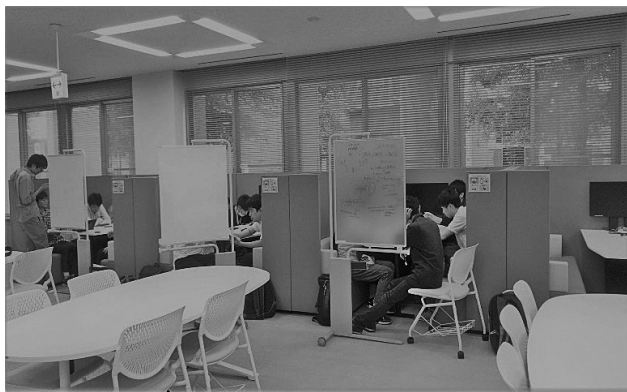


図 5 ワークエリアのボックス席

を共有してのグループワークに利用されている。ボックス席（図 5 参照）は持ち込みデバイスから出力・表示できるモニターを共有しながらのミーティングやディスカッション、またペアプログラミングに適しており、学生に人気のある場所である。

5. 3 ラーニングサポートデスク（1 階）

ラーニングサポートデスクについては前述の通りであるが、サポーターのいない時間帯は自由にグループ学習などに開放している。

このエリアにおいて、イベントとして一部の学生モニターと教職員で本を持ち寄り「読書会」を開催した。これまで手にしたことのないジャンルの本との出会いや、本を介しての活発なフリートークとなった。今後は少しずつ参加者を広げ、継続していく予定である。

5. 4 グループスタディールーム（1 階）

図 6 に活用状況を示す。壁面をホワイトボードとし、A3 テーブル付可動椅子 24 客、超短焦点プロジェクタ 2 台を設置した。他のスペースから仕切られたグループワークやミーティングができる学習室で、単発のゼミや授業でも利用されている。予約システムにより 1 週間前から予約できる。

5. 5 AV コーナー（1 階）

図書館で所蔵している DVD や BD などの視聴覚資料の閲覧ができるエリアで、学生は授業の空き時間などに利用している。3 人用テーブル 4 台、1 人用テーブル 8 台を設置し、以前よりもエリアをコンパクトにまとめた。学生からは工事前にあったソファの 3 人用ブースを惜しむ声もある。

5. 6 1 階の書架

20 年以上使用し続けた 1 階の電動集密書架を、より機能面、安全面に優れる最新のものに更新した。また、



図 6 グループスタディールーム

パーティションで仕切り、倉庫としていた場所に参考図書用のスチール書架を設置した。当初、この場所にも電動集密書架設置を計画していたが、床面の耐荷重超過のため設置を断念しスチール書架とした。

5. 7 PC ロッカー（1 階）

これまではデスクトップパソコン 4 台とプリンタ、スキャナを設置し、学生の利用に供していたが、上述の通り、PC ロッカーを設置し貸出用ノートパソコン 12 台を提供している。

プリンタとスキャナは情報基盤センターのメディアホールのものを利用しているが、移動の不便さから、2019 年度には図書館内にプリンタを設置する計画である。

5. 8 個人用学習室（2 階）

2 階奥に完全個室の学習スペースを 10 室設置した。（図 7 参照）1 階カウンターにて空き室を確認し予約して利用できる。

5. 9 個人用ボックス席（2 階）

個人で利用できる半個室のブースは 9 席から 14 席に



図 7 個室の学習室

増設した。各ブースに照明スタンドやコンセントがあり、集中して学習等に取り組める空間であるため、学生に非常に人気がある。混雑時に寝入ってしまっている学生には声をかけている。

6 まとめ

横浜キャンパス図書館のラーニングコモンズ化は、新しい建物を建て、ゼロから計画案を練るのではなく、既存の空間を新たな学習空間へとリニューアルすることが求められた。

規模の小さな図書館内の空間を有効に活用できるようなデザインの工夫も必要となった。

1階は適度に話し合いや相談ができるアクティブスペース、2階は静かに集中して学習できるスペースにゾーニングをした。オープン当初は「図書館では静かに」という固定観念が浸透していたせいも、学生たちは話し声も控えめにして気を遣っていたようであるが、1年経過した今は、1階ラーニングコモンズでは騒がしくない程度の話声が聞こえるようになった。

図書館運営や学習支援は常に最新の学習活動および学生の行動やニーズ、期待を把握していないと継続的な改善は難しくなると考える。横浜キャンパスには図書館モニター制度があり、学生モニターは年に2回のミーティングやイベントのサポートなどを通して図書館とのコミュニケーションの場がある。これらの機会から得られる利用者の声を積極的に取り入れ、利用者の目線に立った図書館の運営を目指している。図書館機能を高め、継続して発展させていくために、今後は学生モニターのみならず、教員との連携活性化による利用者からの新しい情報の吸い上げが必要になってくると考えている。

謝辞

ラーニングコモンズの整備工事は、法人事務局や他部署の方々の協力なくしては実現しなかっただろうと思う。工事とは縁のなかった図書館職員にとって、図面や契約書、支出科目に関する書類などは理解が難しく、他部署の方々に少なからずサポートいただいた。この場をお借りして心から謝意を表したい。

最後にラーニングコモンズ化の実現に向けて同じ志で共に苦勞した図書館委員の先生方とYC図書館スタッフ林真紀さん、林知子さん、カウンタースタッフの皆さんに心からの「ありがとう」の言葉を捧げたい。